



平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年8月9日

上場会社名 塩水港精糖株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2112 URL http://www.ensuiko.co.jp
 代表者 (役職名)取締役社長 (氏名)浅倉 三男
 問合せ先責任者 (役職名)常務取締役管理グループ長 (氏名)安戸 久仁彦 TEL (03)3249-2381
 四半期報告書提出予定日 平成23年8月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第1四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	8,196	15.2	245	△37.4	391	△29.1	299	△19.0
23年3月期第1四半期	7,117	12.4	393	79.8	552	22.6	369	11.8

(注) 包括利益 24年3月期第1四半期 224百万円(—%) 23年3月期第1四半期 △37百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第1四半期	11 14	—
23年3月期第1四半期	13 75	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第1四半期	26,740	5,433	20.3
23年3月期	27,748	5,345	19.3

(参考) 自己資本 24年3月期第1四半期 5,433百万円 23年3月期 5,345百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	—	—	5 00	5 00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	5 00	5 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	15,500	9.9	500	△33.6	550	△40.8	300	△51.8	11 17
通期	29,500	3.8	900	△21.6	800	△30.3	450	△55.2	16 75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

24年3月期1Q	35,000,000株	23年3月期	35,000,000株
24年3月期1Q	8,139,601株	23年3月期	8,139,601株
24年3月期1Q	26,860,399株	23年3月期1Q	26,860,594株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

業績予想に関する事項につきましては、【添付資料】4ページ「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(その他)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表等	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(6) 重要な後発事象	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

〔当期の経営成績〕

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災や福島原発事故により、個人消費の減退に加え、企業の生産活動の低下、輸出の減少、サプライチェーン立って直しの遅れ等の影響を受け、先行き不透明な状況で推移しました。

当第1四半期累計期間の海外原糖市況は、期初27.44セント（ニューヨーク市場粗糖先物相場（期近限月の引け値、1ポンド当たり）。以下同じ。）で始まりましたが、2011/12砂糖年度における世界砂糖需給が大幅な供給過剰になるという予想から5月上旬に20.40セントまで下落しました。しかしその後、米国の金融緩和政策によりドル安が進み投機資金が海外原糖市場に流入する中、主要生産国であるブラジルが減産に転じるとの見通しから6月には当期間最高値の30.88セントまで値を上げた後、結局28.36セントで当第1四半期累計期間を終了しました。

国内精糖市況につきましては、東京市場現物相場（日本経済新聞掲載、上白糖大袋1kg当たり。）は期初189～190円で始まり、同一水準のまま当第1四半期累計期間を終了しました。

かかる状況の中、当社グループは高品質で安心、安全な製品の安定供給を第一義とし、顧客満足度を一層高めるとともに、価格競争力の一層の向上に努めました。

その結果、当社グループの当第1四半期累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

当連結会計期間	金額 (百万円)	前年同期比
売上高	8,196	15.2%増
営業利益	245	37.4%減
経常利益	391	29.1%減
四半期純利益	299	19.0%減

また、セグメントごとの業績は次のとおりであります。

セグメント	売上高 (百万円)	前年同期比	セグメント利益 (百万円)	前年同期比
砂糖事業	7,594	16.9%増	439	26.3%減
バイオ事業	383	6.0%減	41	78.8%増
不動産賃貸事業	218	2.2%増	29	13.7%減
調整	—	—	△264	—
連結損益計算書計上額	8,196	15.2%増	245	37.4%減

(注) セグメント利益の調整額△264百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用264百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

①砂糖事業

震災後、飲料メーカー等が7月～9月期の節電見通しから前倒し生産を実施し、これに伴う需要増により、販売数量は前年同期を上回りました。また、売上高につきましては、国内販売価格水準の上昇に伴い前年同期を上回りましたが、原材料価格の上昇等から製造コスト増により、セグメント利益は前年同期を下回りました。

②バイオ事業

オリゴ糖

本年4月1日をもって業務用も家庭用と同じ「オリゴのおかげ」ブランドに統一しました。家庭用は主力である量販店を中心に店頭販促に、また、業務用はユーザーの新規採用に向けた営業にそれぞれ取り組みました。

サイクロデキストリン（CDと略称。）

飲料、健康食品などの食品分野の他に、非食品分野への販促に努めた結果、化粧品向けが順調に推移しました。またメタボリックシンドローム対応素材の「サラシア属植物エキス末」の販促に努めました。

以上から、オリゴ糖の売上高は業務用が堅調に推移しましたが、家庭用は慎重な購買傾向により減少し、CDの売上高は「サラシア属植物エキス末」が堅調に推移したものの、既存ユーザー向けが減少したことにより前年同期を下回りました。

③不動産賃貸事業

関西製糖株式会社への大阪工場設備の賃貸、ニューE S Rビル事務所の一部賃貸等、引き続き所有不動産の活用に努めました。

研究開発につきましては、乳糖果糖オリゴ糖がインフルエンザ感染予防や感染後の症状軽減に効果があることを明らかにし、特許を出願いたしました。グルクロン酸の新製法に関しましては、新規工業的生産技術のノウハウにつき継続して第三者への貸与等に努めました。また、抗がん剤「糖修飾パクリタキセル」をリポソームに包み込み、副作用を大幅に軽減し得る「がんミサイル療法」に関しては、実用化を目指して研究開発を精力的に進めました。

また、農林水産省からの研究委託事業として取り組んでいる、米粉を原料とした乳化機能がある食品素材の開発につきましては、計画通りに研究成果をあげました。

バイオ製品（オリゴ糖、CD）につきましては、引き続き製造コストの低減と品質の向上に取り組むとともに、新たな機能の探索に努めました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べて1,008百万円減少し、26,740百万円となりました。これは主に上場有価証券の時価評価額が減少したことによるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べて1,096百万円減少し、21,306百万円となりました。これは主に、借入金の約定弁済が進んだことによるものであります。

また、純資産合計は前連結会計年度末に比べて88百万円増加し、5,433百万円となりました。

これは主に、上場有価証券の時価評価額が減少した一方で、四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間の業績は概ね当初予定通りに推移しており、当第2四半期連結累計期間および通期の業績につきましても、現時点では、平成23年5月12日に公表いたしました業績予想と変更はございません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表等

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,152	1,308
受取手形及び売掛金	1,826	1,985
商品及び製品	796	851
仕掛品	194	180
原材料及び貯蔵品	1,520	1,042
未収還付法人税等	183	38
繰延税金資産	99	137
その他	1,172	1,241
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	6,946	6,786
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,339	9,345
減価償却累計額	△4,484	△4,554
建物及び構築物(純額)	4,854	4,790
機械装置及び運搬具	10,873	10,878
減価償却累計額	△8,706	△8,818
機械装置及び運搬具(純額)	2,167	2,059
工具、器具及び備品	365	371
減価償却累計額	△308	△318
工具、器具及び備品(純額)	56	53
土地	5,190	5,190
建設仮勘定	9	19
有形固定資産合計	12,278	12,113
無形固定資産	122	115
投資その他の資産		
投資有価証券	5,633	4,918
長期貸付金	1,187	1,188
繰延税金資産	1,484	1,525
その他	105	102
貸倒引当金	△8	△8
投資その他の資産合計	8,401	7,725
固定資産合計	20,802	19,953
資産合計	27,748	26,740

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,387	1,082
短期借入金	8,025	8,140
未払法人税等	29	15
未払消費税等	13	93
賞与引当金	65	31
その他	1,187	1,121
流動負債合計	10,708	10,485
固定負債		
長期借入金	9,934	9,070
退職給付引当金	1,272	1,265
役員退職慰労引当金	222	218
その他	264	266
固定負債合計	11,694	10,821
負債合計	22,403	21,306
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	266	266
利益剰余金	7,422	7,586
自己株式	△3,116	△3,116
株主資本合計	6,322	6,486
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△912	△953
繰延ヘッジ損益	△65	△99
その他の包括利益累計額合計	△977	△1,052
純資産合計	5,345	5,433
負債純資産合計	27,748	26,740

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
売上高	7,117	8,196
売上原価	5,822	7,026
売上総利益	1,295	1,169
販売費及び一般管理費	902	923
営業利益	393	245
営業外収益		
受取利息	24	11
受取配当金	144	126
持分法による投資利益	43	55
デリバティブ利益	0	—
雑収入	9	11
営業外収益合計	223	204
営業外費用		
支払利息	58	51
支払手数料	5	1
デリバティブ損失	—	1
雑損失	0	4
営業外費用合計	63	59
経常利益	552	391
特別利益		
投資有価証券売却益	—	55
特別利益合計	—	55
特別損失		
役員退職慰労金	0	—
環境対策費	7	—
その他	0	—
特別損失合計	8	—
税金等調整前四半期純利益	544	447
法人税、住民税及び事業税	194	160
法人税等調整額	△19	△11
法人税等合計	175	148
少数株主損益調整前四半期純利益	369	299
四半期純利益	369	299

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	369	299
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△371	△65
繰延ヘッジ損益	△28	△33
持分法適用会社に対する持分相当額	△6	23
その他の包括利益合計	△406	△75
四半期包括利益	△37	224
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△37	224
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

(セグメント情報)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,496	407	213	7,117	—	7,117
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	6,496	407	213	7,117	—	7,117
セグメント利益	595	23	34	652	△259	393

(注) 1. セグメント利益の調整額△259百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△259百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,594	383	218	8,196	—	8,196
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	7,594	383	218	8,196	—	8,196
セグメント利益	439	41	29	510	△264	245

(注) 1. セグメント利益の調整額△264百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△264百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。